



6月に入りました。6月といえば「…………」。この括弧の中に、いろいろなプラスの言葉を入れて、ポジティブ感を高めて行きましょう。

今月号のテーマは、中学生の子どもに勉強意欲を引き出すための効果的な「魔法の言葉がけ」をご紹介します。保護者の方は必見ですね。一番いいのは子ども自身が自ら勉強に向き合うことです。なかなか難しいこともあります。…。親からの言葉がけを少し工夫、変化させることで、子どものやる気は劇的に変化することがあります。親子関係を深めながら、成績アップを図る方法について今月と来月2か月間詳しく解説します。

### ○中学生のやる気を引き出す7つの魔法の言葉

1. いつかできる時が必ずくる(きっとできるよ)
2. 一緒に頑張ろう
3. 目標を設定しよう
4. チャレンジしてみよう
5. 失敗は成功のもと(やることの勇気があるね)
6. めげずに続けよう結果は後からついてくる
7. 楽しんで学ぼう(できることをさらに伸ばして)

### ○中学生のやる気を下げてしまう8つの言葉

1. はやく勉強しなさい[強制・命令]
2. こんな問題もできないの?[けなす]
3. お兄ちゃんはできたのに…[他者との比較]
4. いつまで続くのやら…[決めつけ]
5. そんなやり方じゃ成績上がらないよ[否定]
6. こんな成績では高校に行けないよ[威迫]
7. ほんとにダメだね[人格否定]
8. こんな成績だと私が恥ずかしいわ[責任転嫁]

「言葉」には人々の心に響く不思議な力があります。「言霊」とも言いますよね。特に中学生のような成長段階にある子どもたちにとって、「言葉」はやる気や自信を育む重要な要素となります。このような言葉の中でも、「魔法の言葉」と呼ばれる特別な言葉があります。これらの言葉は、子どもたちの心を勇気づけ、前向きな気持ちを生み出す力を持っています。



では、なぜこのような「魔法の言葉」が必要なのでしょうか？中学生の子どもたちは、自己実現に向かい自己認識をする重要な成長過程にいます。一段と難しくなる学業に対応しながら、様々な社会的な経験や知識を積み重ね、その中で自己肯定感を築いていくことが必要です。「魔法の言葉」は、子どもたちが自分の可能性や価値を認識する手助けをします。子どもを取り巻く環境からの刺激はその後の人生に大きな影響を及ぼすこともあります。環境としては物的なものもありますが、親や教職員などの身近な大人から発せられるこれらの言葉は、子どもたちの心に希望を与え、困難に立ち向かう勇気を与えることができるようになります。では、どのようにして魔法の言葉を選ぶべきでしょうか？

子どもたちが自分に自信を持ち、やる気を発揮できるような言葉を選ぶことが求められます。ポジティブな言葉や励ましの意味を持つ言葉が特に効果的です。しかし、励ましの言葉の多用は逆効果を生むことがありますので注意しましょう。「できなかった」と子どもから言われた時の親の返事はどうしますか？この場合あまり良くないのは「なんでできなかったの？」と子ども自身に原因を追究することです。これをしてしまうと子どもは、できなかった自分をさらに恥じてしまい、自己肯定感が爆下がりして何もできなくなりますね。「魔法の言葉」を選ぶ際には、子どもが置かれている状況をしっかりと親が確認することから始まります。(個性や今の状況を考慮することが重要です。)

【裏面に続く】

ではどのような返事がいいでしょうか？ 「結果よりも、頑張ってきた道を言葉で返すこと」また「反省を求めるのではなく改良・改善する方法と一緒に考えること」がポイントになります。これにより、子どもたちが成長する過程で「新しいことや困難への挑戦」に直面したときにも、励ましや支えとなる言葉を選ぶことも重要です。



言葉を選ぶ際には、子どもたちの心に響く言葉を用い、彼らの成長と自己実現を促すことが大切です。これらの要素を考慮しながら、「魔法の言葉」を子どもたちに伝えることで、彼らのやる気や自信を育むことができ、新たなチャレンジに向けて心強く背中を押してあげることができます。中学生の重要な成長段階において、言葉は子どもたちの心を鼓舞し、彼らが自己実現を達成するための力となるでしょう。

1. 「きっとできる！」といったポジティブな言葉を使うことで、自信を高め、自分を信じて挑戦する気持ちが湧いてきます。また、自分に自信を持つことは「何事もやればできる！」といった気持ちの土台ができるので、学習意欲を増す手助けにもつながります。

2. 「頑張ろう！」という言葉は、とてもシンプルですが、目標達成のための努力を行う時に、その覚悟と気持ちを引き締めるキッカケになる言葉となります。

○具体的な声かけ例

「宿題がたくさんあるけど、お母さんは、〇〇の資格習得のための勉強だわ。頑張ればきっといつか終わるよ！一つ一つコツコツと頑張ろう！」

3. 夏休みの宿題やテスト勉強など、一日で終わらないものは、短期の目標を細かく定め、スモールステップで進めていくことが大切。

短期の目標をクリアする度に声を掛けてあげたり、進んだ部分について褒めてあげたり、親が進捗に対して興味を持ち続けることがポイントです。長期的な視野を持ち、一歩ずつ着実に進んでいくことができれば、モチベーションが保ちやすくなります。新しい挑戦や困難に果敢に立ち向かうことは、学習に対して努力する機会が得られ、自己成長につながります。新しい分野や難しい問題にも積極的に挑戦することで、自分の能力や可能性を発見することができ、クリアした時には大きな自信にもなります。



4. 「何事にもチャレンジしてみよう！」という言葉は、失敗を恐れず立ち向かう勇気と新しい挑戦に前向きに取り組む積極性を促し、学習をする上では大きな原動力となります。

○具体的な声かけ例

「新しい数学の問題集は難しそうだけど、一緒にチャレンジしてみよう！失敗しても構わないから、楽しんで挑戦してみようね！」

今回は、中学生のやる気を引き出す7つの魔法の言葉のうち4つの言葉について解説を行いました。次回7月号はあと3つの言葉について解説を行います。子どもが勉強に向き合う環境を醸成することも大切ですのでよろしくお願いいたします。

また、一度、親子で登山をすることをチャレンジしてみてください。子どもが勉強に向き合う状況と同じ状況にあると言われるのでチャレンジしてみてください。

スクールカウンセラー来校予定

6/10 (火)、24 (火)

7/1 (火)、8 (火)、15 (火)

面談予約・お問い合わせは、担任または教育相談担当（佐藤）までお願いします。